

こんにちは 森林官です!

十勝西部森林管理署
東大雪支署
森林官(新得担当区)
菅田 健太郎



十勝西部森林管理署東大雪支署は、北海道のほぼ中央部に位置している「裏大雪」と呼ばれる大雪山系の南側エリアを管轄しています。

多くが大雪山国立公園エリアになっていますが、新得森林事務所は管内では珍しく国立公園エリア外にある森林事務所です。新得町の国有林約一万五百haを管理しており、佐幌岳を中心に南北で森林の雰囲気が大きく分かれるのが特徴です。

佐幌岳の南側は、新得町の市街地から近く、町に沿う様に南北に伸びているため里山のような雰囲気があります。

シラカバやナラなどの若い木が天然更新で多く発生しており、全体的に若々しい印象を受ける森林が多くみられます。

一方、佐幌岳から北側の大雪山国立公園に近いエリアは、天然のエゾマツやダケカバなどの大木が乱立する、原生林の空気が漂う森林がみられます。

「根曲がり竹」と呼ば



担当区最北端(奥の山は下ホロカメットク)

れるチシマザサやクマイザサに覆われ、強風や積雪など自然環境も厳しく、施業が困難な場所も多く存在します。

また、もう一つの大きな特徴として「大雪・日高緑の回廊」があります。

「緑の回廊」とは、開発により分断された野生動物などの居住環境を、森林によって接続することで移動経路を確保し、森林生態系の多様性を保護する目的で指定されています。

新得森林事務所は、「大雪山森林生態系保護地域」と「日高山脈森林生態系保護地域」を結び、「大雪・日高緑の回廊」でも一番細くなっている部分

を管轄しており、管轄面積の65%が「森林の架け橋」としての役割を担っています。

森林事務所では、間伐適齢期に達した造林地から木材を生産する「製品生産事業」と、今後の施業の必要性や、森林の状態を把握する「地林況調査」を実施しています。

このほか造林事業や、林道を維持するための路面の修繕作業、土地の境界線を保全する作業、高校生による林業体験など、様々な現場業務を行っています。

最近では爆弾低気圧や台風・大雨などの自然災害が多く、林道機能の維持が非常に困難になってきており、日頃からの林道維持・修繕作業が重要になってきています。

最後になりますが、以前、日高南部森林管理署御園東森林官を担当していた頃、日高山脈の大自然の中で日々業務を行っておりました。急峻な崖が連続する、切り立った山々は人の開発を受け付けず、現在でも多くの貴

重な野生動物植物が生息しています。

現在担当している新得担当区でも、大雪山系の一端を担うエリア故に、他ではなかなか見られない大径木や、希少野生動物、ヒグマやクマゲラなどを良く目にします。

両方の森林生態系保護地域で仕事をさせていただき、両方の地域を結ぶための「大雪・日高緑の回廊」を担当することに深い縁を感じます。

今後様々な機能を発揮する森林を目指し、適切な森林施業を実施出来るよう、自己研鑽しながら業務にあたって参ります。



屈足・新得森林事務所前にて
右から2番目が菅田森林官